

令和 4 年 8 月 19 日  
気象庁情報基盤部

## 配信資料に関するお知らせ

～気象衛星関連プロダクトの一部不具合について～  
(配信資料に関する仕様No. 13901関連)

高分解能雲情報及び改良型雲量格子点情報について、提供開始以降の全てのデータにおいて、一部不具合があることが分かりました。現在、本プロダクトの不具合解消に向けた作業を進めています。不具合の解消時には改めてお知らせしますので、それまでの本プロダクトの取り扱いにはご留意願います。不具合の詳細とご利用上の留意点等については、別紙のとおりです。

利用者の皆さまにご迷惑をおかけしますこととお詫びいたします。

以上

## 1 高分解能雲情報

### (1) データの要素

雲・ダストの有無、雪氷の有無、雲頂高度、雲型、品質情報

### (2) 不具合の概要

「雲・ダストの有無」が「雲無し・ダスト有り（雲・ダストの有無番号が205）」の場合には雲が無いため、「雲型」は「晴天域（雲型番号が0）」、「雲頂高度」は「0 (m)」と、本来どちらもゼロとなるべきところ、ゼロ以外の値が格納されています。このような不具合が生じている格子は、高分解能雲情報の全格子中、0.1～1%程度存在します。

なお、「雲・ダストの有無」、「雪氷の有無」及び「品質情報」については、不具合は発生していません。

内容	パラメータ番号	十進尺度因子(D)
1 雲・ダストの有無※3	201	0
2 雪氷の有無※4	202	0
3 雲頂高度 (m)	12	-2
4 雲型※5	8	0
5 品質情報※6	200	0

雲・ダストの有無	雲・ダストの有無番号
0 晴天域(雲無し・ダスト無し)	200
1 雲まじり有り・ダスト無し	201
2 雲有り・ダスト無し	202
3 雲無し・ダスト有り	205
4 雲まじり有り・ダスト有り	206
5 雲有り・ダスト有り	207

雪氷の有無	雪氷の有無番号
0 雪氷無し	0
1 雪氷有り	11

雲型	雲型番号
0 晴天域	0
1 積乱雲	1
2 上層雲	201
3 中層雲	202
4 積雲	4
5 層積雲	3
6 層雲又は霧	204
7 晴天域	200

「雲・ダストの有無」が「雲無し・ダスト有り」の場合に、雲型・雲頂高度にゼロ以外の値が格納されている

### (3) ご利用上の留意点等

「雲型」または「雲頂高度」のみに着目してデータを利用すると、異常値を利用してしまふ可能性があります。異常値が混入する割合は0.1～1%程度となります。「雲型」、「雲頂高度」のデータを利用する際には、「雲・ダストの有無」が「雲無し・ダスト有り」の格子点については「雲型」及び「雲頂高度」の情報をゼロ（無し）として扱うことで、正しくご利用になることができます。

## 2 改良型雲量格子点情報

### (1) データの要素

全雲量、上層雲量、対流雲量、雲型、雲頂高度

### (2) 不具合の概要

改良型雲量格子点情報（格子の間隔：0.20度（緯度）×0.25度（経度））は、高分解能雲情報（格子の間隔：0.02度（緯度）×0.02度（経度））をもとに作成しています。そのため、高分解能雲情報で1 (2) の不具合のある格子を含む改良型雲量格子点情報の格子では、「上層雲量」、「対流雲量」、「雲型」及び「雲頂高度」の値が正しくない場合があります。

なお、「全雲量」については、不具合は発生していません。

※2 パラメータ番号

内容	パラメータ番号	十進尺度因子(D)
1 全雲量(%)	1	0
2 上層雲量(%)	5	0
3 雲頂高度(m)	12	-2
4 対流雲量(%)	2	0
5 雲型(雲型番号)※3	8	0

※3 雲型番号(雲量格子点用)

雲型	雲型番号
0 晴天域	0
1 積乱雲	1
2 上層雲	201
3 中層雲	202
4 積雲	4
5 層積雲	3
6 霧又は層雲	204
7 曇天域	200

全雲量がゼロにもかかわらず、これらにゼロ以外の値が格納されている場合などがある

### (3) ご利用上の留意点等

「全雲量」がゼロ(0%)の格子について、「上層雲量」、「対流雲量」、「雲型」、「雲頂高度」にゼロ以外の値が格納されている場合は、それらをゼロ(無し)として扱うことで、正しくご利用になることができます。

一方、「全雲量」がゼロ(0%)以外の格子については、「全雲量」が「上層雲量」と「対流雲量」の和よりも小さくなっている場合は不具合が生じている格子として判別することはできますが、それ以外の場合においても「上層雲量」等に正しい値が格納されているとは限らず、また、それらの正しい値を確認することもできません。

しかしながら、改良型雲量格子点情報は、高分解能雲情報の南北2601格子×東西3301格子のデータから南北261格子×東西265格子の情報に変換して作成しており、また、高分解能雲情報における不具合格子の発生割合が0.1~1%程度であることから、本来の正しいデータとの差は比較的小さいと考えられます。

(参考：改良型雲量格子点情報(雲頂高度)の一例)

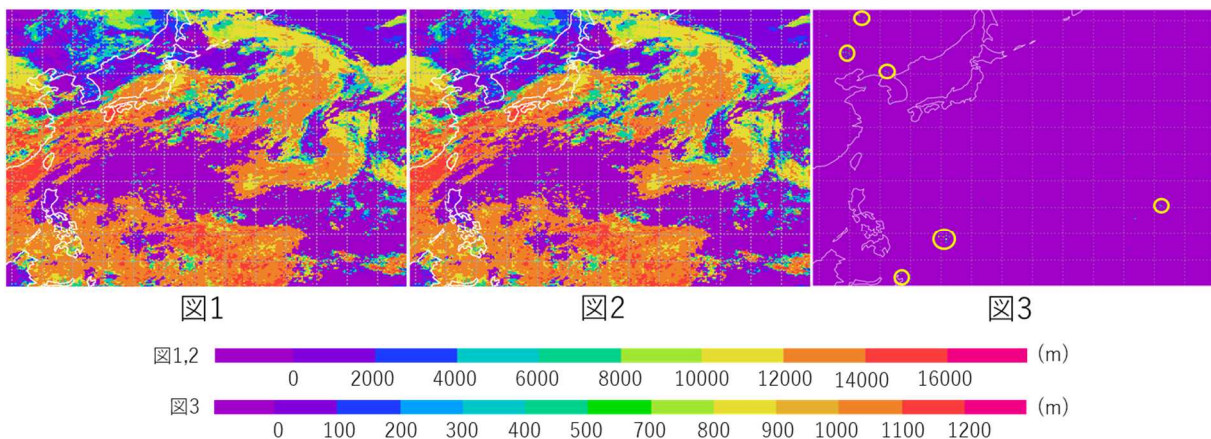


図1：本来の雲頂高度(不具合なし)、図2：現行の雲頂高度(不具合あり)、図3：差分((不具合なし)-(不具合あり))

※図3の黄色い枠囲みは、差が生じている主な部分。